

令和元年度まち普請事業 第76回部会 議事録

日時	令和元年7月27日(土) 10:00~11:55
開催場所	横浜市ユートピア青葉
出席者 【敬称略】	部会委員) 植松、岡本、加藤、川原、後藤、菅、鈴木 事務局) 横浜市：嶋田、甲斐、植竹、飯野、池宮、羽賀、横澤 市民セクターよこはま：山田 横浜市住宅供給公社：岡部、都出、土屋、高橋

議事	
事務局	本日は杉崎部会長より欠席のご連絡をいただいております。7名の委員の皆様に出席をいただき、開催の要件を満たしていることを確認させていただきます。本日の議事進行については、横浜市地域まちづくり推進委員会ヨコハマ市民まち普請事業部会設置要綱第6条に基づき、職務代理者である川原委員にお願いをいたします。
川原	では次第に従い進めてまいります。
1. 令和元年度活動懇談会について【資料1-1、1-2】	
事務局	(資料に基づいて、概要を説明) 基本的には昨年度の内容をそのまま踏襲しています。アドバイスをするのは過年度整備した方々で、委員の皆様はその場ではアドバイスをせずに、アドバイスしている状況、会話やステップアップシートの説明の中で、各グループがどうなのかを確認していただきます。「自由に会場間を移動する」という記載はそのような意味合いです。一昨年度はファシリテーターを配置していましたが、過年度の整備グループからアドバイスをもらう場ということで、昨年度からファシリテーターを置かず、サポートを市の職員が行うという形でやったところ、事務局としては比較的上手くいったと考えており、今回も前回は踏襲して提案をしております。
川原	新たに委員になられた方もいるので、少しやりとりをして、イメージができればいいと思います。ちなみに、最後の交流会は委員も色々話してもよいということでしょうか。
事務局	そうです。
川原	審査するのにアドバイスをするというのが、難しい関係性だといつも思いながらやってきましたが。
岡本	それまでは一言も話してはいけなかったのでしょうか。
事務局	昨年度は、委員の皆様は意見交換をしている周りに座っていて、そこから発言はされてきました。今年度はどのようにするかについては新たにご議論をお願いします。ただ、昨年度も主は過年度グループとの意見交換であり、委員からはアドバイスというよりも、補足として聞きたいことを聞くような発言だったかと認識しています。全く発言ができないということではないですが。 去年は、加藤委員が過年度グループとしてアドバイスをされていたかと思いますが。周り

	から言われるのはどうでしょうか。
加藤	そうですね。正直、あまり覚えていないですが、一体感を持ちながらやっていた気はします。それほど大きな仕切りはなかったような印象です。あまり委員がアドバイスをしない方針だったということは、今知りました。
川原	基本は静かにしておいて、どうしても聞きたいことがあれば発言をするということになってみましょか。昨年もそれで問題になっていない気がします。盛り上がると前のめりになってしまうこともあります。
岡本	私は発言したので覚えているのですが、地域や自治会と手を組めとすごく言うわけですが、それは難しい時もあります。それが全てまち普請ではないのではないかと、といった趣旨の発言をしたことを覚えています。
川原	わりとグサッとやっていただいたのを覚えています。やはりどうしても、アドバイザーの皆さんでもそれが上手くいったところだと、そのようなアドバイスになりがちですが、そうではない事例もいっぱいありますし。
岡本	地域で手を組むということは結構難しいこともあります。町内会も自治会も、実力がある人がずっと何十年も会長をやっているような古いところもあって、そういうものも含めて一律に手を組めというのは、どういうものかと思って思わず発言しました。
川原	岡本委員は寧ろアドバイザーに入らないのですかと思ったりもします。
鈴木	どちらとも言えるのではないのでしょうか
川原	やはりその地域の状況を見ながら、どのようなスタンスをとるかは両方あるかと私も思いますので。その辺りは様子を見て。そう言われたからといって、問題になっていませんよね。寧ろ、経験のある委員だからこそわかる勘所を伝えていただいたらいいかと思います。これは結構本質的な話だと思っています。どういったものをまち普請として選んでいくかという時に、地域にあまり協力が得られていないと一次コンテストを通過できないのかというと、私も疑問に思いました。
事務局	その辺りは、ある程度委員の裁量に任せていただくということによろしいのでしょうか。以前、委員から「これで通過できる」と捉えられてしまうようなアドバイスをすると、一次コンテスト通過グループがそれを気にし過ぎてしまうようになってしまうことを懸念するという議論があったかと思います。今、川原委員が言われたように経験上どうであったかという話であれば、それは審査項目になっているという印象は与えないと思いますので、その辺りはフランクにやっていただく方がグループにとっても考える機会になるかと思います。
後藤	「セッション1」と「セッション2」はどのような変化があるのでしょうか。「グループ入れ替え」というのは、グループの配置が変わるのでしょうか。
事務局	そうです。一次コンテスト通過グループが6あるのですが、施設の都合上会場を3つにしか分けられないため、2回に分けております。3会場それぞれペアになっているグループは同じ部屋にいて、セッション1の時間には、セッション2のグループの人たちは、セッ

	<p>セッション1のグループがアドバイスされている様子を見ることができます。その間、委員の皆様は3部屋を自由に往来しながら様子を聞いている状況です。セッション1が終わると、次のグループに移りますが、セッション1のグループはそのままその場に残って、セッション2のグループの懇談の様子を聞けるという形です。</p>
後藤 事務局	<p>例えばA会場であれば、最初は「icocca」に対する意見交換会ということですね。</p> <p>そうです。その間「たかのす自治会建設委員会・集会所計画チーム」は「icocca」の様子を聞くことができます。また、逆に「たかのす自治会建設委員会・集会所計画チーム」の意見交換の際は、「icocca」の人たちが残っていれば聞くことができます。当日は「他の会場を見にいてもいい」とアナウンスをして、他のアドバイザーの発言や、意見交換の様子を自由に見ることができるという提案としています。会場ごとに提案内容に近いグループをセットにして振り分けています。</p>
川原 事務局	<p>グループの人も途中で移動をしてもいいということですね。</p> <p>そうです。昨年度もそのようにしていて、今年度も同じ形式を考えています。公開でコンテストをするものであり、またアドバイスを受けているところに関しても、一つのところに偏らず、公平にアドバイスしていることを、公正な立場で聞けるということを見ていただいた方がいいというご意見もあったかと思います。</p>
川原	事務局でアドバイスの内容などについてはメモをとっていただけののでしょうか。
事務局	はい、記録しております。
川原	それを提案グループに配布もしますか。
事務局	提案グループには配布はしていません。自分たちでメモをとってもらっています。あくまで内部資料として、当日の議事録代わりに記録しています。
川原	では、我々委員には共有はしていたでしょうか。隣の部屋ではどのようなアドバイスをしたのか、どのような議論をしたのかというのは、共有することになっていたでしょうか。
事務局	委員には共有はしていなかったかと思います。後日、共有した方がよろしければ、メール等でお送りすることは可能です。
川原	事務局の負担が変わらないのであれば、せっかくなので共有をお願いします。
事務局	わかりました。なるべく情報量が多い方が判断しやすいと思いますので、事務局で簡単に整理したものを共有するようにいたします。
川原	<p>アドバイザーのアドバイスも勉強になるので、共有できると良いと思います。</p> <p>今回の交流タイムはコーヒーは出ますか？</p>
事務局	<p>コーヒーボランティアは参加しませんが、会場にコーヒーサーバーがあり、自由に飲んでもよいと聞いております。なお、補足ですが、今回は試みとして会場は新しい場所になっています。株式会社富士通エフサス「みなとみらい Innovation & Future Center」です。駅からのアクセスは比較的良いのですが、いつもと違う場所ですので、後日、事務局からご案内をお送りします。</p>

川原	このような新しいところで実施することの意義は、提案グループに見てもらいたいといった思いがあるのでしょうか。
事務局	企業が自社のPRのために設置している施設であり、横浜のみなとみらいにこのような施設があるというのを見ってもらうことで、横浜の魅力を地域に知っていただくこととなります。また、綺麗な会場でやることで、モチベーションが高まることを期待しています。
加藤	当日は何時に会場に入る予定でしょうか。
事務局	当日、委員の皆様には事前説明の時間を少しいただきたいので、30分程度早くお集まりいただくことになるかと考えておりますが、現在調整中ですので、確定し次第ご連絡いたします。
後藤	整備済みグループは、それぞれ何グループ参加しますか。
事務局	1会場あたり2グループを配置するので、6グループを予定しています。アドバイザーは、会場間の移動はしませんので、セッション1、2ともに同じグループの方がアドバイスすることになっています。
川原	アドバイスをいただく2グループの方がどのような取り組みをされているかについて、提案グループには事前に資料などを渡す予定でしょうか。
事務局	当日に配布資料にアドバイザーの方のグループの整備内容の紹介を入れます。また出席者紹介の際に、職員から資料をもとに簡単にですが説明をする予定にしています。
川原	始めの開会の際に全体に向けて説明するということですね。
事務局	会場ごとになりますが、その予定です。地域まちづくり課の職員から、出席者紹介をさせていただきます。また、アドバイザーが決定した時点で、提案グループには打ち合わせの際にアドバイザーが取り組まれた整備の概要はお伝えしてありますので、当日まで全く情報がないままという状況ではありません。
川原	そうですね。事前に情報がある方が安心して聞けますね。わかりました。
事務局	今の議論のように、提案グループの方が、自分とは別の会場のアドバイザーの議論を見たいということがあるようならば、アドバイザーが全員決まった時点で、どの会場にどのアドバイザーがいるのかを周知した方がよいでしょうか。
川原	その方がよいかもしれません。交流会の時にも、声をかけやすいかもしれませんし。
事務局	それでは決まり次第、情報を提供するようにします。 もう一点、ステップアップシートについてですが、昨年度と同じ内容になっていますが、今年度何か追加したほうがよいかなど、ご意見がありましたら伺えますでしょうか。
川原	昨年度は提案グループのみなさんは、うまく記入することができましたか。
事務局	この用紙と合わせて、記入の参考例を配っていて、裏面のこれまでの活動実績と今後の予定については、1枚では収まりきらず2～3ページに渡って書き込んで、今後の作業の整理をしてきたグループが多かったように思います。こちらの用紙は、活動懇談会の当日ではなく、事前に委員の皆様とアドバイザーの皆様にはお送りをして、事前に目を通させていただいた上で当日アドバイスをしていただくという流れになっています。

川原	これを書くにあたって、少し事務局の方でもサポートをするということでしょうか。
事務局	<p>記入例も用意をして、打ち合わせの中でも相談をしながら作成をいただいております。ただ、これまでの実績と予定ということで、過去のことと未来のことを合わせて書いていただくような様式になっているので、その意味で昨年を見ていると、書きづらかったところもあったかと感じました。しかし、うまくその辺りも汲み取りながら書いていただいたので、特に問題はなかったと思います。</p> <p>実際に二次コンテストに向けて、今やっている活動、そして今後どのように進めていくのか、まさにステップアップシートということで、この辺りを考えていただく過程の中で、各グループが自分たちの頭の中を整理するという意図もあります。整理をしないとやはり二次コンテストは厳しいということもありますので、難しいかもしれませんが努力をいただきたいとも考えております。</p>
川原	アンケートを実施したりなど、時期を決めていけないといけないですからね。グループの皆さんも、一次コンテストを終えてホッとしてしまって、9月まであまり活動しないと思うので、これをきっかけにエンジンをかけ直すという感じですね。
2. クラウドファンディングの効果検証について【資料2-1～2-4】	
事務局	<p>(資料に基づいて、概要を説明。以下、)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資金調達成功のポイントとして、当初「共感を得られるストーリー」、「今支援しないといけない理由」及び「魅力的なリターン」が重要であるという仮説を持っていましたが、実際やってみて、これら3つが非常に重要であることが実感できました。 ・「魅力的なリターン」でいうと、NPO法人 Connection of the Children では、支援者へのリターンとして、レシピ本を小学校に寄贈するメニューを途中から追加をいただいたところ、後半はこちらが伸びてきたという印象があります。 ・おもいやり隊では、企業からの支援が非常に印象的でした。今回の整備で、拠点の中に小箱ショップを設置する予定ですが、その小箱ショップの半年間の利用権、3万円のリターンに対して5社が支援をしたり、5万円のリターン枠の広告紙のスポンサーに対しても3人の事業主が支援をしました。さらには、10万円支援のリターンでクレープの命名権というのがあったのですが、こちら3人の事業主の方が支援をしました。
事務局	<p>議論に入る前に、このようなアンケートを実施すること、また部会で議題としてあげることは、事前に委員の皆様にお知らせをすべきであったと考えております。遅れてしまい申し訳ありませんでした。また、アンケートについても、当日お渡しして意見を伺うというのは乱暴であるとも思います。こちらに関しても申し訳ありません。</p> <p>本日杉崎部会長も不在の議題となりますので、ここで議論いただいた内容をこのあと来られる杉崎部会長にも説明した上で、本日の議論だけで足りないものに関しては後日ご意見をいただき修正をしたいと考えております。</p> <p>今回ご提示したのは、2者のクラウドファンディングの目処がついたことで、秋ぐらいにはアンケートをとりたいと考えてのことです。また、他にもクラウドファンディングに取</p>

後藤	<p>り組んでみたいというグループもありますので、今回のアンケートの結果をフィードバックできればと思います。第一弾として本日アンケートを出させていただきました。</p> <p>とても重要な調査、効果検証だと思いながら拝見しました。私も自分が関わっている拠点系の居場所でクラウドファンディングに挑戦したことがあり、その経験も踏まえると、準備や取り組みの作業量がとても多いので、どのような体制で取り組んだのかという点も重要かと思いました。グループの中での作業の体制、何人ぐらいで取り組んだのか、分担などどこまで聞くのがいいのかわかりませんが。全部自分たちで行ったのか、外部のサポートを受けたのかなど、その辺りの取り組み方などを深掘りしてもいいかと思いました。インタビューで把握するのがいいかもしれませんが。</p>
川原	<p>それなりの作業量があるということですね。大変な部分がある。また、プレッシャーも色々とかけられることもあると。</p>
後藤	<p>得意な人、スキルを持っている人がいると、より効果を発揮すると思うのですが、どういうスキルを持った人が、どういうことをやったのかも結構重要かと思います。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。体制などに関する項目もアンケートに盛り込みたいと思います。今回は横浜市としても最初ということで、担当係長もかなり力を入れてやってきましたが、受ける側のグループの負担も大きかったと思いますし、行政の職員もその職員個人のスキルだけで回していくのは難しいので、それを定型化していくために、手引きではないですが、まとめていきたいと考えています。今の体制についてもしっかりと把握をしたいと思います。</p>
川原	<p>加藤委員はこれからアンケートに回答する側ですが。</p>
加藤	<p>他のグループはどうだったのかというのは聞いてみたいですね。先ほどお話しがあった準備のことですが、我々もわからないところもある中で突っ走ってきた部分もあるので、今後自分たちの中で消化をしていく意味でも、アンケートがあるのはいいと思います。</p>
後藤	<p>加藤委員のグループにしても、おもいやり隊にしても、クラウドファンディングだけで資金を集めたのですか。その他の方法でお金は集められたのでしょうか。</p>
加藤	<p>私たちの企画自体が少し特殊で、「いつになるかわからないけど、いつかできたらいいね」と言っていたものを、今回の機会があったので動かし始めました。ですので、他での資金調達は考えず、クラウドファンディングで成功をさせて「やりましょう」というものでした。</p>
後藤	<p>私が関わっているところは、年配の方はクラウドファンディングに少し抵抗があるのに加え、手数料が3割とか取られてしまうことにも抵抗があり、銀行の口座を別に設けて、そちらにも寄付をいただけるような仕組みにしました。あと、現場にも寄付箱を設けるなど、同じ期間に複数の寄付の窓口を設けるようにしていました。そういうことも調査してもいいかと思いました。</p>
加藤	<p>私たちは今回は特に他はなく、クラウドファンディング一本でやりました。</p>

川原	私もその部分を聞きたいと思っていました。クラウドファンディングの他、様々なお金の集め方がある中で、各グループがどのように思いながら挑戦していたのかが一つ。 Connection of the Children は、まさにクラウドファンディングならではの取り組みだと思うのですが、今後の事業によっては3割も手数料をとられるというのは、言うなればとても金利の高い手立てで、それよりは本来もっと銀行が頑張ってくれればとも思います。このような取り組みを金融機関はどう思っているのだろうかということも気になるところです。それは別途、地元の金融機関に聞いていただけたらとも思います。
事務局	今回の案件では、手数料は3割まではいっておらず、10数%ではあります。業者によって異なります。
鈴木	そのようなことを知らない立場でいうと、今はクラウドファンディングに挑戦した側のアンケートでしたが、実際に寄付をした側の気持ちはどうなのかというのを、いずれどこかで聞いてもいいなと思います。行政がやるものではなく、寄付を受けた当事者のグループがやるものかとも思います。
加藤	今のお話を伺って思ったのですが、アンケートの中の私たちが主体に書く部分に加えればよいと思いますが、実際に寄付者に話を聞いたら、「どんなことを感じていたか」「どんなことを話していたか」ということを含めてもいいかもしれません。確かにクラウドファンディングのことを知っている何名かの方からは、「クラウドファンディングだと手数料をとられるから、私の思いが100%届かない」ということを言われました。「直接渡したいのだけど」という声に対しては、「横浜市とも協力してやっていて、手数料はとられるけども思いは全部届きます」とお伝えして、振込いただくことにしていました。他の方々がおっしゃっていることもすごくわかります。
鈴木	ネットしか見ない、新聞も見ない人たちもいると思いますので、新しい寄付の仕組みとしてクラウドファンディングは良いと思います。逆にそのようなことは遥か彼方の話で、直接行って払う方がいいという人もいて、多様な形があるので、いいとは思いますが。
川原	今の話は質問項目として、クラウドファンディングをやるということについて、いろいろな形の協力者から、どういった意見をもらったか、そのようなものがあれば、書いていただくということでしょうか。
事務局	グループの方にどのような意見がきていたか、わかる範囲で書いていただくことも検討します。なお、寄付者の情報は、プロジェクト終了後に実施したグループに提供されます。横浜市としては、そこは完全に部外者となりますので、寄付者の情報を受け取ることはありません。いずれにしても、協力をいただける範囲で、寄付者の方達の声が聞けるように、グループとも相談してみます。
川原	今回、まち普請事業としっかりと組んだクラウドファンディング事業ということで、我々審査員がバタバタとしてしまいました。なんとなく応援しないと、というか、最終的にはメールで色々やりとりをしている中で、それぞれの判断で個人としてやりましょうということになりましたが、その辺りも意思統一をしておいた方が良いでしょう。もっと

岡本	<p>言えば、今回のおもいやり隊の方は、物件が二転三転して耐震補強がどの程度必要なのか、そのためのお金が準備できているのかというのが、結局よく分からないまま選考することになりました。クラウドファンディングでの資金調達を前提としたような提案に対して、二次コンテストで実現性をどう見るかを、どう我々が判断して投票したらいいのか、ということを整理しておかないといけないという気がします。</p> <p>選んだからには責任があるという気持ちになる。実際にお願いに来られると寄付をしました。クラウドファンディングだと手数料が取られるので、寄付のほうがいいかと思ったり。その辺りの私たちの関係については、私も思いました。</p>
事務局	<p>今までは整備を終えた団体に対してクラウドファンディングを投げかけようということではじめたのですが、試行と検証ということで、これから整備をするグループにもクラウドファンディングを活用いただいた、という整理で今はきております。今後の審査に関しては、このクラウドファンディングを前提に資金調達をすべきでないと考えています。計画の実現性については、場所も資金も確保されているというのが、行政として実現性があると考えます。クラウドファンディングを前提とするということは、実現性として、実際に資金を確保されている方よりは評価が低いと考えます。二次コンテストにおける実現性については、それも踏まえて委員の皆様と議論いただき選考をいただきたいと思います。</p>
川原	<p>その辺りをはっきりさせておくことが大事ですね。なんとなく一体的な事業に見えてしまうので。</p>
事務局	<p>それについては、私どもの伴走支援の中で、職員を通じて提案グループにも伝えてまいります。</p>
川原	<p>秋頃にアンケートを取るということで、もう一度ぐらいこの内容について議論する機会がありますか。</p>
事務局	<p>次回、委員の皆様にお集まりいただくのが、活動懇談会当日となります。それまでに本日の議論に加えての意見があるかを確認させていただき、その結果を活動懇談会までにまとめて、当日にご提案をさせていただきます。</p>
川原	<p>先ほど、事務局から「この後、杉崎部会長にも報告して」とありましたが、今日の午後に杉崎部会長は来られるのですか。</p>
事務局	<p>午後、途中から合流できそうだと連絡をいただきました。合流されたら、移動のバスの中などで本日の資料をお見せして、議論の内容をご報告します。杉崎部会長も内容も読むことも必要で、ご意見もお持ちかと思しますので、後日他の委員の皆様も含めてご意見をいただくことをご説明いたします。</p>
<p>3. その他【資料3-1、3-2】</p>	
植松	<p>今、8月9日締めで一次コンテストのコメントを集めていますが、その内容は9月7日までに通過グループには伝わって、考える材料にすることになっていますか。</p>
事務局	<p>はい、そのように考えています。</p>
事務局	<p>(資料3-1に基づいて、概要を説明)</p>

川原	事務局でまとめていて、特にこの辺りを議論した方がよいのではという点はありませんか。
事務局	全体的に感じているのでは、当日杉崎部会長が丁寧に伝えてくださってはいるのですが、まだまだ事業として大事にしている部分を伝えることが難しいということで、毎年感じております。
川原	あれ以上説明するのも難しいですね。
事務局	杉崎部会長が事業の説明をする際のパワーポイントの内容について、事前に事務局とも調整をしたいとお話をいただいております、来年からはうまく調整を進めるよう改善したいと考えております。
川原	短い時間でこの事業の意義を伝えることについて、もう少し努力が必要かもしれません。
後藤	今まで、準備や相談の段階で伝えているのでは。
事務局	提案グループに関してはもちろん説明をしているのですが、当日は一般の方も来られるので、その方々への説明という部分になります。また提案グループの中でも、打ち合わせに出て来られるコアメンバーがいて、その方には趣旨は説明して理解いただいておりますが、コンテストの当日までに地域の方を募って来られるので、そういった地域の方々にまでは話がなかなか及んでいないということはあると思います。
川原	パンフレットもあるし、それなりに説明するツールはあるとも思いますが、そういうところまで届いていない現状ということですかね。
事務局	例えば基本的なところでは「施設整備だけにしかお金がでないのか」という意見が毎年少し上がってきます。もともと施設整備に用途が決まった助成金なのですが、施設整備を通じて地域コミュニティの醸成を図るという意図が伝わっていない点であったり、模造紙を使用することに関しても、提案グループには伝わっていると思いますが、一般の方に公開の場で説明するのも難しいというのもあるかと思えます。 模造紙についてはご議論をいただければと思っているのですが、手作り感があり、壁に貼って説明をしていくスタイルもわかりやすいと思いますが、今回の一次コンテストでも音を鳴らすなど、いろいろな提案がありました。模造紙を残すところの良さもありますが、パワーポイントなどの様々な技術もあって、一次コンテストから使うことに関しても、このような意見が出る以上は検討する必要もあるかと考えております。できれば、委員の皆様にもご意見をいただければと思います。作業する負担や、写真を印刷して拡大するだけでも費用がかかりますし、パワーポイントであればそのあたりのメリットもあります。
川原	あのようにポスターにするのは、短い時間の中で理解をするのには便利ですね。学会などでも、人数が多い中でやるときは、パワーポイントだと全体像が見えないので、ポスターにするのはある程度定式化された方法であって、いいかと思えます。相談タイムの時にはポスターは必要だと思います。発表の時にポスターを使うことについては、発表の時にはもしかすると議論の余地はあるのかもしれません。
加藤	ポスターセッションはとても大事なので、模造紙をなくすという選択肢は今のところない

後藤	<p>と思います。もう一つの懸念が、私はどちらかというとパワーポイントを使えるのであったらいいと思いますが、今回の提案グループを見ていると、どう考えてもそのスキルの差が大きいことは明白です。例えばパワーポイントをうまく使えない人が、「パワーポイントを使ってもいいですよ」と言われた時にそれが活用できるのか。パワーポイントをうまく活用できる人たちにとってそれが大きなアドバンテージになるので、例えば、こんなことはないと思いますが、企画が良くなくても見せ方が上手ければ通過することが、パワーポイントだとあり得ると思います。そのような点をどうしていくのかは非常に難しいです。完全に若手やスキルがある人に限定するのであれば、パワーポイントにしてしまう、パワーポイントとポスターセッションにするのもいいかとも思います。</p> <p>今、あまり中身がしっかりしていなくても、パワーポイントがとても印象的であれば通過するというお話でしたが、それはわからないと思います。どうでしょうか。皆さんであれば見抜けるかと思います。審査項目も決まっているし、質問する項目はあまり変わらないかと思います。印象はぐっと良くなるというのはあると思いますが。</p>
岡本	<p>パワーポイントは綺麗に魅せられますが、年配者はそれほどできない。だから、一次コンテストはポスターでいいと思います。みんなが集まってワイワイやりながら作る。パワーポイントだと一人がいればできてしまう。綺麗にできると思いますが。提案グループでは60代前後の人も多いと思います。どんどんできる人も増えていると思いますが、私は一次コンテストからは反対です。差が大きいと思います。</p>
鈴木	<p>私も一次コンテストはポスターがいいと思います。多数の人が関わるという感じがよくわかるので。まち普請の目的は、企画の内容に加えて、人との関わりを判断したいので、どちらかというとパワーポイントで見るよりはポスターで見る方がいいかと思います。発表もできるだけ多くの人が出てくる方が、中にはこれだけ出てきてもわからないというものもありますが、その有効性があると思っています。</p>
加藤	<p>もしくは審査基準が明快ではあるにもかかわらず、「審査基準が曖昧だ」というアンケートの回答が出てくるので、例えばこちら側で「ここには写真、ここには文字を入れること」フォーマットを用意しておく。そうすれば、審査基準に則ったパワーポイントが出てくるので、見る人たちもわかりやすい。少しつまらなくなるかもしれませんが。</p>
菅	<p>まち普請とは少し離れますが、私たちはよくまちづくりのコンペに参加するのですが、その時には提案書というのを出します。実際にプレゼンテーションする時には、パワーポイントにするのですが、条件があります。それは、提案書に書かれていないこと、提案書に表現している写真や図面など以外のものは使ってはいけないということです。だから、パワーポイントを使ってもいいかもしれないけれど、ポスターセッションに使うものだけを使ってやるのであれば、ありかと思います。手作り感のあるパワーポイントを作って、それが意外と訴求効果を上げるかもしれません。</p>

川原	コンペはそうですね。一度ポスターを作っているの、みんながそこで関わることになり、スライドで順番に説明するという感じですね。
菅	そうであれば、あまりパワーポイントを使ったことがない人も、写真を撮ってそれを貼ればいいのでできると思います。
川原	私もパワーポイントはどんどん流れていくので、そもそもなんの目的であったかがわからなくなってしまうことがあります。ポスターだとずっと出ているので、もう一度戻って確認ができる。聞く方は行ったり来たりしながら、全体像を同時に見たいですね。その意味ではポスターがいいですね。
事務局	事務局から議論をお願いしたのですが、実際にはこの話は次年度の一次コンテストでの話になります。また来年度の議論をする機会がありますので、今日の議論や二次コンテストの様子なども振り返っていただけたらと思います。
川原	実際にその議論の時に、今日の議論のメモや、実際菅さんが話された発表の例などがあるといいですね。
事務局	先ほど、植松委員からご発言がありましたが、昨日一次コンテストの委員コメントの依頼をメールにてお送りしております。コンテスト当日にいただいた講評は整理をしておりますが、それだと短すぎるため、肉付けをいただくようお願いをいたします。最後に昨年度にコンテストを通過したグループの整備状況をご報告します。
事務局	(資料3-2に基づいて、概要を説明)
事務局	もう一点、情報提供をいたします。毎年、一次コンテスト不通過グループのフォローをどうするのかご意見をいただいております。コンテスト終了後の交流会でも、市の職員からも声かけをして来年度の応募や、地域まちづくりプランの検討など別の事業を投げかけたところ、聞いてみたいという声も出ています。 地域まちづくりプランには、事業費助成というものがあり、9割補助が基本ですが最大500万円の助成金が最大3年間受けられる、つまり1,500万円の9割までは3年間かけて補助できるというものです。現在、20地区が認定されています。一つネックになっているのが、3年程度をかけて作るという点で、今回まち普請で不通過だったグループにお伝えすると「3年もかかるのか」という反応もありました。それを改善するために、法定計画でつくられる「地域福祉保健計画」と、計画をつくる過程が似ているもの、あるいはその中で施設整備がしたいという案件があれば、連携ができないかと4～5件を目安に調整をすすめています。 そのような動きなど、不通過グループに対してフォローとして、新たな動きを作れないか、またスピードアップができないかと検討をしていますので、またこちらの部会でも情報提供させていただきます。

植松	地域福祉保健計画の話が出ましたが、あの制度は今のところは基本的に各区の連合を中心に動いています。神奈川区は21と多いですが、少ないところでは8や6というところもあり、そういった区では一つの連合の範囲が非常に広くて、中に属している町会が20とか30になります。一つの町会の中の問題点というのは、わりと近隣の方々に明らかになりますが、それを地域福祉保健計画の中で論じてまち普請につなげていくというのは、マクロとミクロでなかなかつなぎにくいのではないかと懸念します。例えば、私が住んでいるまちのことを、私が属している連合全体のことにはできるかということ、なかなか難しい気がします。
事務局	その点も含めて課題はあります。地域福祉保健計画は、まちの福祉のことになりますが、そこにはハードの施設整備に関して対応できるメニューがないという中で、地域まちづくりプランはまち普請よりもう少し広いエリアに対応できます。ただ、今お話があった通り、連合の単位になると広すぎて、単会の話にブレイクダウンすることは難しいという意見もあり、どのように整理するかは現在事務レベルで議論をしております。連合の推薦をもらうなど色々方法はあるかと考えています。地域の中でできるだけハレーションが起きないような手法がないか、またできる地域とできない地域が出てくるかもしれないので、そのあたりモデルケースを考えながら検証していきたいと考えております。
植松	真剣に考えている町会と、割と古いやり方で進めているところでは、温度差と落差が明らかにできるので、やはり前向きに取り組んでいるところに、3年間という部分を理解いただく方が早い気がします。
事務局	ありがとうございます。何ができるかということ整理して、モデル的な地区が出てくれば、「この地区はこのような方法で」と示すと、理解をしやすいかと思います。
植松 川原	一つができると、連合の中で触発されるということはあると思います。 私からも一つ。wifiや宅配便と組んでなど、どちらかという企業とうまくマッチングできると進められそうな提案というのも出てきていて、ああいった提案をどう受け止めていくかは考えておいた方がいいと思います。横浜市であれば、共創フロントなど企業とのマッチングを得意としているような部署もあると思いますので、そういったところに情報を提供していくことがあり得るのか、そのあたりいかがでしょうか。
事務局	以前、まち普請においても企業マッチングをやってきて、こまちプラスなどがヤマト運輸と連携したという事例もありますので、今後何かできないかというのは、マッチングの流れの一環で検討してみたいと思います。今回のクラウドファンディングに関しても、共創フロントにおいて募集したところ、6社が手を挙げてくれたという経緯もあります。本日いただいた意見を踏まえて、まち普請だけでなく、地域まちづくりの支援策の中で企業との連携が何かできるかは模索をしていきたいと思っています。少し形ができてくれば、また部会でも報告してご意見をいただきたく考えております。
後藤	wifiなど町内会レベルの地域的な広がりがあるところは、企業や何らかの市の事業とのマッチングができるとも思いますが、まだ点でしかなかったような拠点で動こうとしてい

事務局	<p>る方もいます。今回も「この3階建の建物がすごく素敵で買ってしまいました」という人がいましたが、ああいった事例は今後どのようにフォローをされていくのかが気になっています。</p> <p>ああいったグループに関しては、地域福祉保健計画などではなく、来年度またまち普請に挑戦するのか、あるいは挑戦しないのであれば、他の地域まちづくり課で持っていないメニューも含めて、何か使える市の助成制度を紹介しながら、終わったから手を離すわけではなく、逐次情報交換をしながら、より良い方向性を模索していくという形で対応をしていきたいと思っています。</p>
後藤	<p>とても思いはあったけど、あの時点ではまだ広がりが見えず、それがうまく広がってけばいいと思いました。</p>
川原	<p>あの提案は、これをきっかけに地域につながって、地域からも意見を素直に求めて、提案が発展しそうな気がします。まさに再挑戦してもらえそうな気がしています。</p>
事務局	<p>先日、フォローで打ち合わせにいつてきましたが、今とある財団の助成金を獲得しようと奔走されています。獲得できたら、1階を整備して地域の人が入りやすいしつらいにして、地域との関係性をつくるきっかけにしようとしています。来年度もまち普請の挑戦を検討されているようでした。</p>
加藤	<p>私も終わった直後に話をしてきたのですが、発表した方の隣にいた若い方が娘で、かつ美容師志望ということで、それをもっと押し出したらいいのではとお伝えしたら、「ああ、そうか」とおっしゃっていました。来年は「親子で取り組むプロジェクトです」と出せたらいいと話していたので、うまくフォローアップすれば、面白いプロジェクトになるかと思いました。</p>